

ナガボナツハゼ *Vaccinium sieboldii* Miq.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 19。湖西丘陵南部から渥美半島にかけての狭い範囲だけに分布する固有種で、本地域の固有種の中では最も危機的な状況にあり、しかも危機的な状況にあることが十分認識されていない種である。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 30~150cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形で、長さ 3~7cm、幅 2~4cm、先端は鋭頭、辺縁は全縁で鋸歯はなく、表面の主脈上に毛が散生するほかは無毛である。花期は 5 月、若枝の先に長さ 5~10cm の総状花序を伸ばし、多数の下向きの花をつける。花冠は鐘形で先は浅く 5 裂し、長さ約 5mm、白色で 5 本の赤色の縦条がある。果実は球形で黒熟し、直径 5~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部(芹沢 86999, 2011-5-21)。
12 新城(富岡, 加藤等次 s.n., 1963-9-18)、
17 田原東部(赤羽根町高松北(小林 45102, 1993-7-10)、18 田原西部(江比間, 芹沢 73548, 1997-5-18)で採集された標本もあるが、2011 年の調査ではこれらの区画ではナツハゼとの雑種と思われるものしか確認できなかった。ナツハゼとの雑種と思われるものは、東：12 新城(芹沢 86936, 2011-5-21)、15 豊橋北部(芹沢 87000, 2011-5-21)、17 田原東部(芹沢 83006, 2011-5-21)、18 田原西部(芹沢 87100, 2011-6-15)にあり、16 豊橋南部(大清水町, 小林 16494, 1977-5-7)で採集された標本もある。

【国内の分布】

本州中部地方南部(静岡県西部、愛知県東部)。

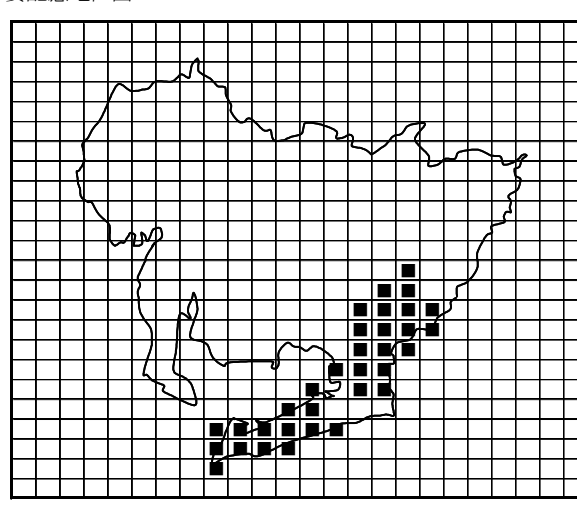
【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

やせた低山地の疎林の林縁などに生育している。「湿地に生える」と記述されている文献も少なくないが、湿地性の植物ではない。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

かつてはいくらでもあった植物らしいが、2011 年の調査では、雑種性でないと判断されたのは 1 地点の 3 個体のみであった。よほど被陰に弱い植物らしく、かなりの疎林であっても林内にはほとんど見られない。森林化の進行に伴う光条件の悪化が、衰退の主要因と思われる。

【保全上の留意点】

近縁種との交雑は、一般的には種を絶滅に追い込む一つの要因と考えられている。種の保全のためには、通常は純粋と思われる集団を見つけ、それを維持・増殖させることが求められる。しかし、本種ほど危機的な種の場合は、雑種性のものであっても本種の遺伝子を含んでいるという点で重要であり、保全の対象とする必要がある。そのようなわけで本種については、雑種性らしいものしか確認できなかった場所を含めて、樹木を伐採して疎林・半裸地状態を維持することが急務である。生育地のほとんどがチャートの岩山か超塩基性岩地なので、一度伐採すれば、効果はある程度持続するものと思われる。

【特記事項】

西日本の日本海側に分布するアラゲナツハゼ *V. ciliatum* Thunb. に近縁である。県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

【関連文献】

保木本 I p.120, 平木本 II p.152, 平新版 4 p.259, 環境省 p.101, SOS 旧版 p.69+図版 11, SOS 新版 p.59,61.